

「雪道は危険がいっぱい」

雨などでぬれた路面の水分が凍結し、薄い氷の膜ができた状態

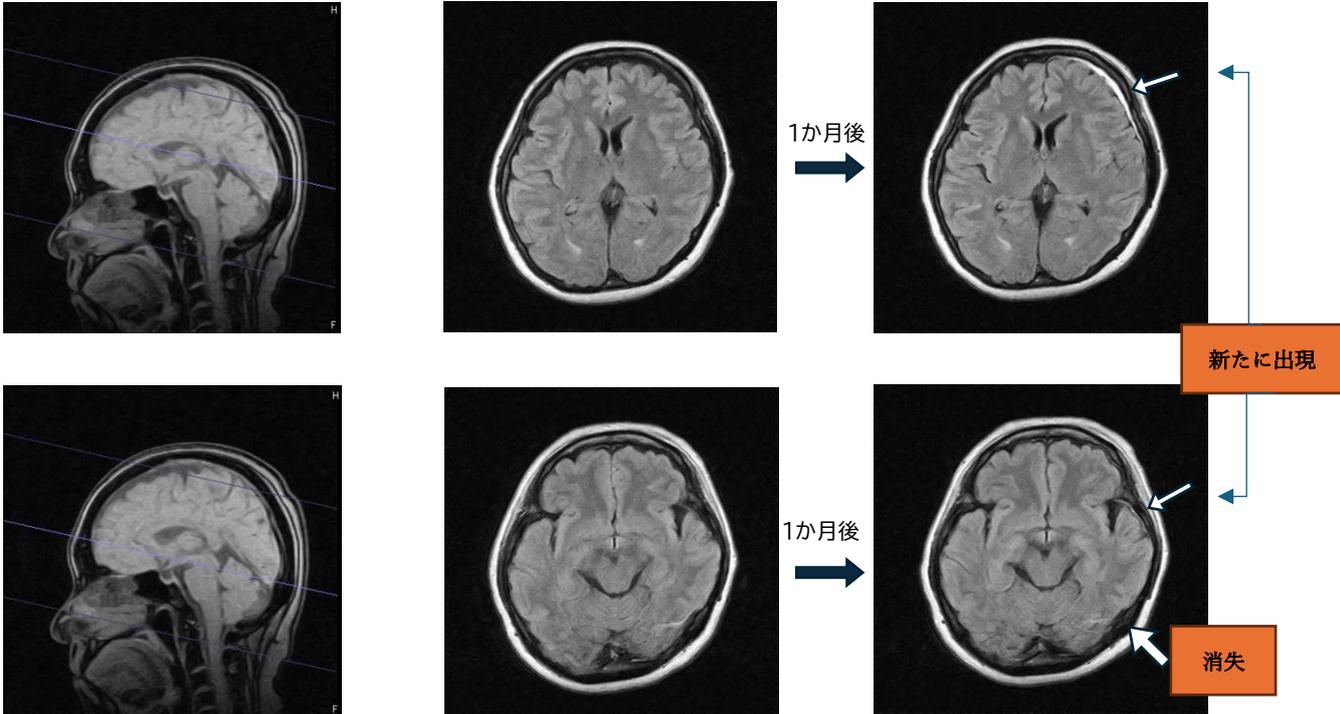
医) たむら脳外科クリニック 理事長 田村亨

雪どけがすすみ、よく晴れた日の朝は放射冷却で、とけた雪のあたりに「ブラック・アイスバーン」ができています。

月曜日の朝ゴミ出しのとき、滑って転倒して頭を打ったという方が来院されます。ケガの直後には脳挫傷、外傷性くも膜下出血が心配されます。そこから、1か月ほどして心配になるのが「ボケの原因」ともされる慢性硬膜下血腫です。雪道で滑って転倒し、頭部を打撲した症例を提示します。

[外傷性くも膜下出血、急性硬膜下出血]

1月某日朝、歩行中、後方に転倒して受傷した。転倒した場所は自宅付近の道路であった。右後頭部を打撲した。受傷直後の意識消失、ケイレンはなかった。自力で起き上がった。そのとき、打撲した部分に痛みを感じた。暫くして、頭痛、後頭部痛を感じた。メマイを感じた。嘔気を感じたが、嘔吐はなかった。翌日、当院を受診した。意識清明で、言語明瞭であった。神経学的に明らかな異常所見は認められなかった。頭蓋内損傷の有無を確認する目的で頭部MR I 検査を行ったところ、両側の後頭蓋窩の硬膜下腔に出血様信号強度の液体貯留（右側>左側）を認めた。さらに、左後頭葉にも出血様信号強度の異常信号域を認めた。



[左慢性硬膜下血腫]

頭部MR I 検査上、頭蓋内出血を認めたため、経過観察することになった。3~4日前から、頭重感がある。足の運びが悪い気がする。前回受診してから約1ヶ月後、当院を受診した。意識清明で、言語明瞭であった。両側とも粗大力は保たれており、左右差を認めなかった。つぎ足歩行が不安定であった。慢性硬膜下血腫の有無などを確認する目的で、頭部MR I 検査を行った。左側の硬膜下腔に血腫様信号強度の液体貯留を認めた。血腫の程度が軽く占拠性効果に乏しかったため、経過観察することになった。

